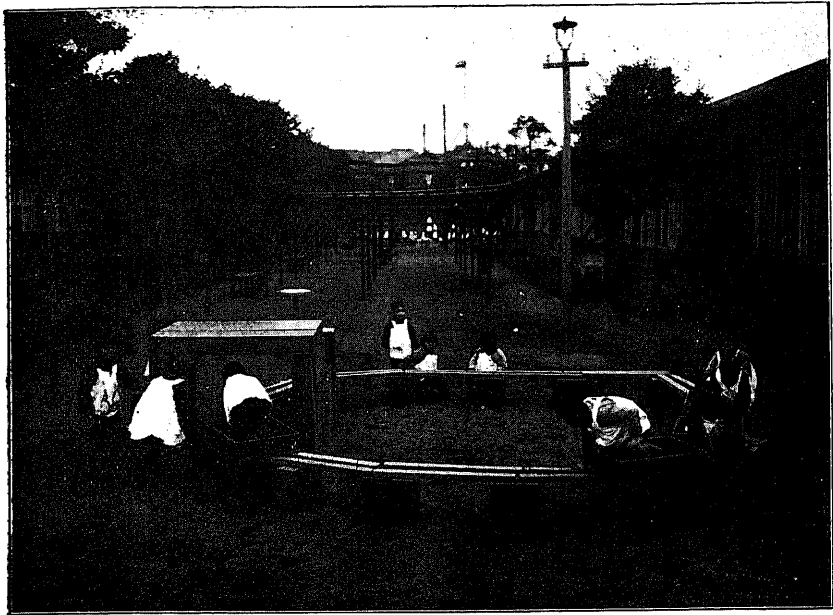


## 相 撲

— 幼児の生活(五) —

力一はい。

自分より弱い弟や妹を相手にしては、それは出ません。大人にお  
相手をして貰ったのでは、それは出ません。どこまでも五分々々の  
力と力との取組にだけ、それが用るのであります。大人の相撲には  
四十八手の秘術があるといひますが、幼児の相撲にはたゞ全身全心  
の緊張の外に何物もありません。ぐんぐん押しゆく攻撃精神と受  
けて耐へる踏ん張りのねばりと、それが土俵の上で争はれるといふ  
よりも、相互を強めてゆくことだけであります。そして、小さい行  
司の可愛らしい目の光るところ、一切を支配するものはフェア  
プレーの法則ばかりであります。(倉橋惣三)



## 大 積 木

— 幼児の生活(六) —

部屋の中だけでは足りないで、積木の室外進出。一つ／＼擔ひ出した大積木を、庭一ぱいに廣く列べて、積木箱が早速のトロツコになりました。一體此の大積木は、机の上に指先で列べた在來の小積木と異つて、運ぶにも、置くにも、兩腕の力を要します。身に自分で箱の中に入り込んで、トンネルにぶつからないやうに通つてゆく片手押しトロツコには、傍觀者に分らない程の大努力を要するのであります。— 大人は努力の結果を楽しみ、子供は努力そのものを楽しむのであります。(倉橋惣三)



## おまじこと

— 幼児の生活(七) —

「こんにちは」

「まあ よくいらつしやいました」

ばらの御門に、きれいな御座敷。

「どうぞ お茶を召しあがれ」

「ありがとうございました」

小さいお盆に、草のお菓子。

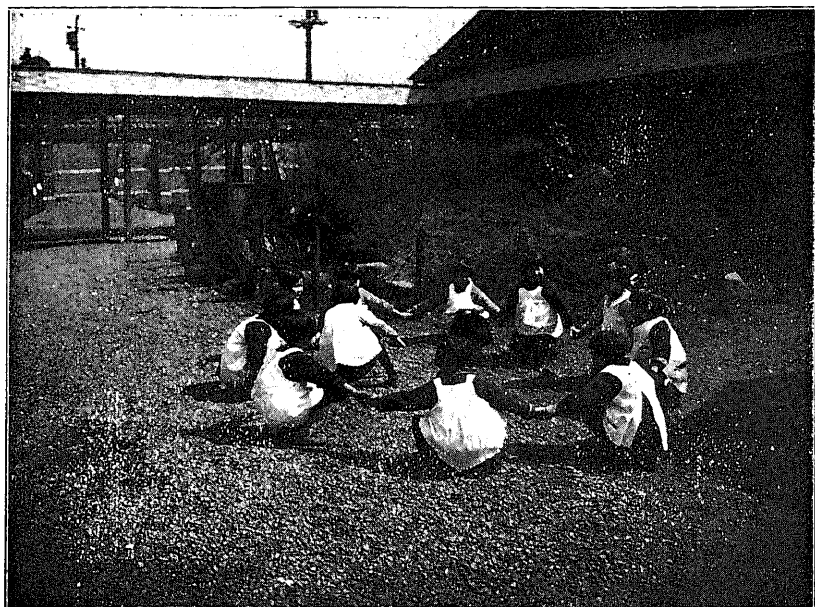
「澤山召上つて下さい」

「はい、いただきます」

丁寧なお嬢様と、お行儀のいゝお客様。

うつとりと想像の中に遊ぶ幼児達の世界は、いつでも明るく笑

じてゐます。(倉橋惣三)



## かごめ

—幼児の生活(八)—

やはらかい早春の日光の下に、可愛らしい聲が輪をつくつて歌ひます。

「……………」

……………

……………

夜あけのばんに  
鶴と龜とつつべつた。

うしろの正面だーれ

ゆるやかな歌の調子がびたりやむと、輪の中の子どもは、首をかしげながら、きつばりいひます。

「花子さん」

ばち／＼と、にぎやかな拍手が湧きます。そして今度は、その花子が輪の中にはいります、籠の中の鳥になつた心であります。さてこの次のうしろの、正面は誰に當りませう。

のどかな歌の聲と、小砂利を踏む軽い音とが、いつまでも／＼続きます。

かごめ／＼

籠の中の鳥は

いつ／＼出やる。

……………

……………